

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500654		
法人名	社会福祉法人 幸寿会		
事業所名	グループホームさくらいふ六軒屋 ユニットA		
所在地	愛知県春日井市六軒屋町西3丁目13番地27号		
自己評価作成日	令和5年7月8日	評価結果市町村受理日	令和6年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が一日一日楽しく、穏やかに笑顔で過ごしていただける様にレクリレーション等を行っている。
 季節の壁紙を 作成して頂き 春夏秋冬を感じて頂く。
 訪問診療、訪問看護、訪問歯科、薬局との連携を密にして 医療面での補佐を行っている。
 毎日、バイタル、血中酸素飽和濃度を測定している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392500654-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、同一建物内に小規模多機能事業所と有料老人ホームを併設して運営していることで、利用者や家族の様々な状況に合わせた支援が行われている。利用者の中には、小規模多機能からグループホーム生活場所を移行された方や逆にグループホームから小規模多機能に移行された方もあり、一人ひとりに合わせた支援が行われていることで、利用者や家族の安心感にもつながっている。職員研修についても、年間を通じて様々な研修が行われており、職員の資質向上につなげる取り組みが行われている。また、感染症問題が続いていたことで長期にわたり書面開催であった運営推進会議を令和5年8月に対面方式で実施している。会議の際には家族への参加を呼びかけた結果、多くの家族の参加が得られており、ホーム開設以来初めてとなる家族同士の交流の機会にもつながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年9月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実践につなげていく様に努力している	ホーム独自の理念がつけられており、理念を職員の目に入る場所に掲示することで、日常的に理念の内容を意識する機会につなげている。理念には「笑顔」のある生活を目指す内容を掲げており、職員への注意喚起等にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響もほぼなくなり、今後は日常的な地域との交流に取り組んでいきたいと考えている	ホーム開設から間もなく感染症問題が発生したこともあり、地域の方との交流が困難な状況が続いている。地域の方との交流については、併設事業所内に広いスペースが確保されていることで、併設事業所とも連携しながら実施することを構想している。	地域の町内会の方との交流は行われているが、地域の方がホームに訪問する機会がつけられていない状況でもあるため、今後の感染症の状況をみながら、地域の方がホームに訪問する機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響もあった為、今はまだ活かしているとは言えないが、今後は地域に向けて活かしていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告、話し合いも出来ており、そこでの意見はサービス向上に活かされていると思っている。	会議については、対面方式での会議を実施しており、徐々に本来の会議に移行する段階でもある。会議については、多くの家族の参加が得られており、家族との交流の機会にもつながり、様々な意見等が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	積極的とは言えないが協力関係を築くよう取り組んでいる。	ホーム管理者を通じて、市担当部署との情報交換等の機会をつくりながら、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとは、併設の小規模多機能事業所含めて情報交換等の機会がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動できるように職員間での見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修の実施が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が見過ごされることがない様、注意払われ防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会は持ててないと思う。活用できる支援は出来てないと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様や家族様への疑問等については、十分な説明、理解、納得が図られていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様や家族様の意見、要望については、管理者、職員、また内容によるが外部者への情報共有が出来ており運営に反映されていると思う。	令和5年8月に実施した運営推進会議で多くの家族の参加が得られたことで、交流の機会につながっている。運営推進会議の案内文書に「意見欄」を設けることで、家族からの要望等の把握につなげている。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	感染症問題が長期化していることで、当ホームでは、長らく家族との交流の機会がとられていなかった状況でもあるため、今後の定期的な実施に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を聞く機会はあるが、決して十分とは言えないと思う。	ホームでは、毎月の職員会議の機会をつくりながら、職員間で情報交換を行い、管理者を通じて業務改善等の機会につなげる取り組みが行われている。また、管理者による職員との面談の機会をつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	その様に、取り組んで頂いていると思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	セミナー、研修等、参加させて頂く環境を提供して頂いていると思っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	セミナーなど同業者と交流する機会を提供して頂いているとは思いますが活動は積極的とは言えないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスを導入する段階より、本人の安心を確保するための関係づくりには積極的に努めていると思える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスを導入する段階より、家族等の要望に耳を傾けながら良好な関係づくりには積極的に努めていると思える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用も含めた対応に努めているとは言えないと思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、利用者様と暮らしを共にする者同士としてんぼ関係を築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築けていると思う		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	その様な支援が出来る体制は整っていると思う	感染症問題が続いている状況であるが、可能な範囲で家族との外出ができるような機会をつくりながら、身内の方の法事等、入居前からの関係の継続につながる機会がつけられている。また、行きつけの場所にも出かけることができるような支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に積極的に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ本人の希望に沿った生活が出来る様に支援しております。	職員間で利用者に関する気付き等の情報を共有しながら、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、毎月の職員会議を通じたカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握が出来ております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人おひとりの状況について現状把握が出来体制が整っており把握はできていると思う		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の状況について、ご本人や必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画が作成されていると思う。	介護計画については、利用者の状態変化等にも合わせた見直しが行われており、柔軟な対応が行われている。職員間での検討や現状確認を行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録や介護日誌を通じて情報共有が出来ており実践、介護計画の見直しに活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいるかはよく分かりません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	適切な医療を受けられる環境が整っている	協力医が日常的にホームに訪問していることもあり、利用者の健康状態等にも合わせた対応にもつながっている。また、協力医療機関の訪問看護との連携も行われており、利用者の医療面での連携につなげる支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護により適切な看護を受けられる環境が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、薬局との情報交換、共有の関係が整っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明されていると思います。	利用者の中には、身体状態の重い方が生活を継続する等、ホームでも可能な支援が行われているが、現状の支援体制も考えながら、家族とは医療機関をはじめとする次の生活場所に移行する話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアル、フローに沿った行動が出来る様、体制が整っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけていると思います	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設事業所との合同の訓練を実施しながら、事業所間の連携につなげる取り組みが行われている。また、備蓄品については、併設事業所と連携ながら確保している。	ホーム開設から間もなく感染症問題が起きたことで、地域の方との交流ができなかった状況でもあるため、災害に関する近隣の方との情報交換等、ホームで可能な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に利用者様の尊厳には重きをおいて対応をしております。	ホームの理念には「笑顔」を大切にされた内容が掲げられており、管理者から職員への注意喚起の機会にもつなげている。また、年間研修には職員の接遇に関する研修も設けられており、職員の振り返りにつなげる取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人ひとりお一人のペースを大切に出来るだけ本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援できていると思う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんでもらえる様、利用様の希望も取り入れながら手作り料理やテイクアウトも取り入れています。	外部業者も活用しながら食事の提供が行われているが、毎週金曜日はホームで調理を行う機会をつくっており、利用者の希望に合わせたメニューや利用者も参加した機会につなげている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量をしっかりと管理、記録し対応できる体制が整っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアが出来ていると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	お一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、排泄や排泄の支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、申し送り等も通じて、一人ひとりに合わせた排泄支援を行う取り組みが行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、協力医や訪問看護とも排泄に関する医療面での連携を行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療との情報共有、相談により予防、対策が出来ていると思います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	主には午前中の時間帯に、入浴して頂いておりますが、出来る範囲で本人の希望に沿って支援しております。	利用者が週2回の入浴ができるように入浴の準備が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら定期的な入浴につなげている。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節に合わせた入浴の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室での休眠を促したり、お昼寝の習慣を大切にしたりして休眠して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	使用している薬の目的を理解し服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来るだけ本人の希望に沿った支援が出来ていると思います		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の散歩には特に心がけております。	現状、利用者の外出が困難な状況が続いているが、季節や天候等にも合わせながら、ホーム周辺を散歩に出かける等の支援が行われている。また、季節等にも合わせた花見等の外出行事が行われている。	利用者の外出の機会が少ない状況が続いていることもあるため、今後の様々な状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関してはトラブルを失くす為に所持はして頂いておりません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自らの電話のやり取りはないですが、本人の希望や要望に応じて家族様にお伝えしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔、清掃に務め室温にも注意し空調を整えています。季節感が出せる様に壁飾りなど配慮しております。	ホーム内は限られた広さであるが、窓が大きいことで採光に優れており、利用者は日中の時間を明るい雰囲気でも過ごしている。庭には畑があり、様々な野菜類を栽培している。また、壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用の空間の中でも個人的にくつろげる場所や、仲間どうしでくつろげる場所が配慮されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人が居心地よく過ごせる様に、家族、職員が工夫をこらせていると思います	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方の居室もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。ベッドが備え付けとなっており、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレのマーク表示や、各人の部屋に大きく名前を常時するなど工夫がこらせていると思います		